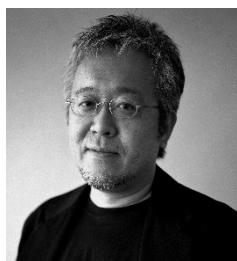


パネルディスカッション 登壇者のご案内



©Yoshiaki Tsutsui

原研哉氏

(ジャパン・ハウス総合プロデューサー)



國定勇人氏

(新潟県三条市長)



モーリー・ロバートソン氏

(国際ジャーナリスト)

パネルディスカッション 登壇者のコメント

【「ジャパン・ハウス地域活性化プロジェクト」発表会について】

■各登壇者のコメント

・原研哉氏

「日本は世界に評価されると喜ぶ、謙虚な国。評価よりも世界で機能する、世界に貢献する日本を示していきたい。例えば燕三条のラジオペンチは先端を見るだけでその精巧さに震える。緻密、丁寧、繊細、簡潔が常識として根付いているものづくりの国は意外とない。評価されることを目指すのではなく、ビジョンとしたたかさををもってジャパン・ハウスに関わってほしい」

・國定勇人三条市長

「燕三条の製品は、海外では輸送コストの分高価で販売されているし、それに見合う品質がある。ただし、製品のみではその技術的価値は十分に伝わらない。一方で興味を持った海外のハイエンド層が地域を訪れても、それに見合う宿泊や飲食を提供できる環境がまだない。地域での体験を通じて、ハイエンド層にさらに製品の価値を感じてもらえるような取り組みが必要だと考えている」

・モーリー・ロバートソン氏

「ジャパン・ハウスは文化的にも発信力の強い都市にある。そのような場所で日本のクリエイターを修行させることもアイデアのひとつ。若いクリエイターが世界で評価と刺激を受けながらさらなる成長を遂げ、日本の発信に貢献する仕組みが生まれることにも期待できるのではないか」



JAPAN HOUSE

<ジャパン・ハウス ロゴ>

ジャパン・ハウス地域活性化プロジェクトについて

日本の魅力を発信する上で、多様な気候や自然、独自の文化が生み出す地域性は欠かすことができない要素です。その魅力を積極的に発信することで、ジャパン・ハウスから地域活性化の初動をつくり、相互の関係をつくり出すのが本プロジェクトです。

その初企画として、2018年の秋にジャパン・ハウス ロンドンで、新潟県燕三条地域の工場見学イベント「燕三条 工場の祭典」の要素を取り入れた、同地区の金属加工文化を中心とした紹介を実施する予定です。そして、その発表・周知を目的に、今回の3月2日（金）の東京と、3月20日（火）には三条市にて、これからの地域活性化を一緒に考える発表会を行います。